稲門フィラテリー

第24号

2007年6月1日発行

目で考える切手の発行

小川　義博

わが国の切手の発行は濫発(乱発)そして濫造(乱造)がなされているといわれていますが、どのような時間的経過をたどり、どのような問題を抱えてきたのか客観的でわかりやすい資料がないようです。そこで切手の発行を目で考えやすいように幾つかのグラフにしてみました。そこから見えてくるものが今後の会員諸氏の切手発行と切手収集を考える一助としていただければ幸いです。

整理対象

今回、調べる対象としたのはわが国の普通、航空切手を除く特殊記念切手としました。参考資料としては日本切手カタログ、さくら日本切手カタログを用い、特殊切手のシリーズ分類、名称等はこれらを参考としました。また、グリーティング、高齢者向け切手は特殊切手に含めて整理しました。また、上記のカタログとは異なって交通安全、郵便番号、省エネ等の一連の宣伝切手は啓蒙(キャンペーン)切手としてひとつのシリーズにしました。

さらに、20世紀デザイン切手シリーズに代表されるような連刷シートは1券種（1種類の切手）とはしないで、シートに印刷され他には発行されていない異なる印面の数だけを券種として整理しました。従って20世紀デザイン切手シリーズはカタログでは17券種であるが170券種として整理しました。これはこれら連刷シートが分割しての販売が郵便局でなされたという理由です。

小型シート、ペーンは券種とは別に整理しましたが、小型シート中に小型シートだけに発行された券種は対象としました。

（例　昆虫切手ｼﾘｰｽﾞ小型シートの40円２種等）

券種からみる切手の発行

各シリーズ切手が発行された時期を年単位に整理してみたのが図1です。1950年代までは記念

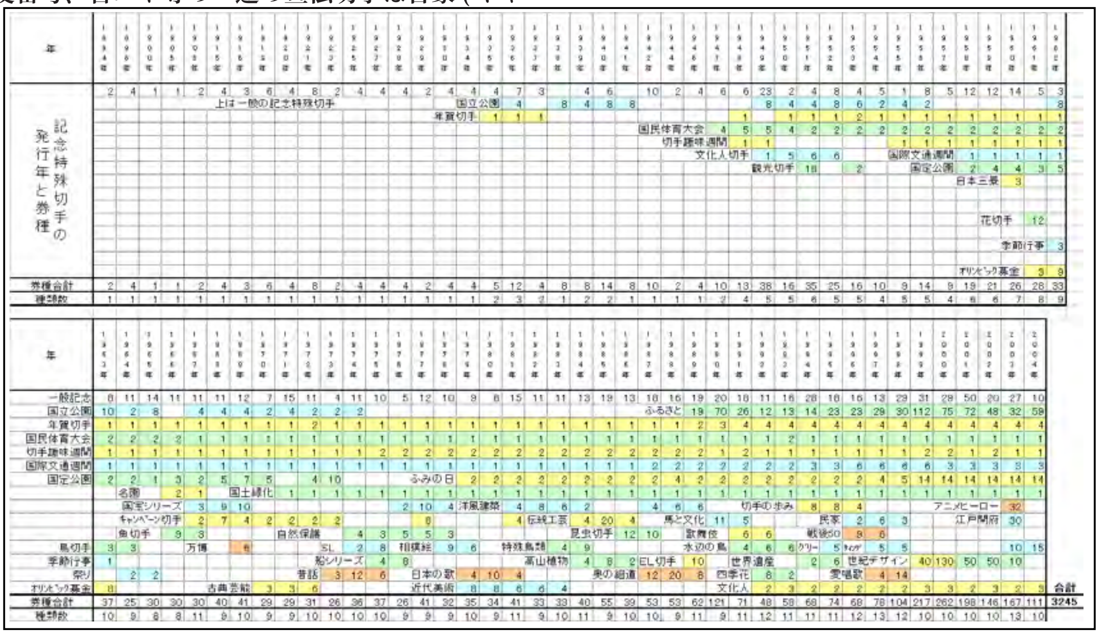


図１　記念・特殊切手の発行経過

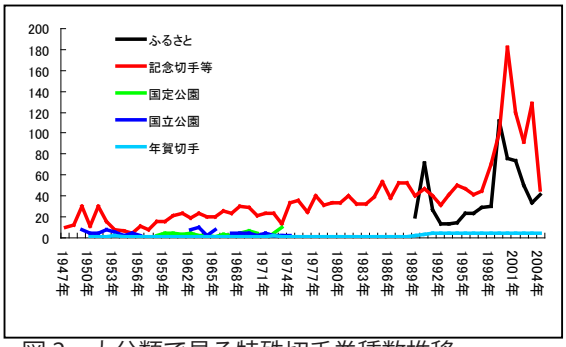


図２　大分類で見る特殊切手券種数推移

切手以外に年間３～４種類程度のシリーズ切手であったのが60年代より倍増して10種類を越えるシリーズ切手が発行されるようになってきてます。1980年代半ばからはシリーズ数は変わりないのに券種が非常に多くなりひとつのシリーズで発行される券種の増加が大きいことがわかります。更に、1990年代になるとご存知のとおり「ふるさと切手」なる怪物切手シリーズが券種数を大幅に増加させ、加えて1990年代後半からは連刷シートの発行が加わり年間100を超える切手が発行される切手乱発国となってしまっていることがわかります。

ここでふるさと切手と連刷シートの発行が如何に券種（切手の種類）を多くしてしまったかを図２のグラフで見てください。ふるさと切手が年平均42券種とそれまでの記念特殊切手年間券種数を越える切手を発行させ、1998年の長野オリンピック連刷シートに始まる連刷シートの発行がおおきな問題であることがお解りいただけるかと思います。また、各シリーズ毎の券種数を見ても図３グラフ太い棒のようにふるさと切手券種の突出と20世紀デザイン、世界遺産、ふみの日シリーズが他の長期発行の国立公園、年賀切手を越える券種を発行させていることを見ると、ふるさと切手と連刷シート発行が真剣に検討されてしかるべきでしょう。

発行枚数で見る切手発行

乱発でなく乱造（濫造）の観点で発行枚数を整理してみると、宣伝、啓蒙を図るための交通安全、労働安全、貯蓄、省エネ、そして郵便番号等キャンペーン切手の他の切手に比べ格段に発行枚数が多いのは、その目的からして当然と考えられます。また、長期間にわたって発行されてきた年賀、国民体育大会、国土緑化シリーズの切手の発行枚数が多くなっ

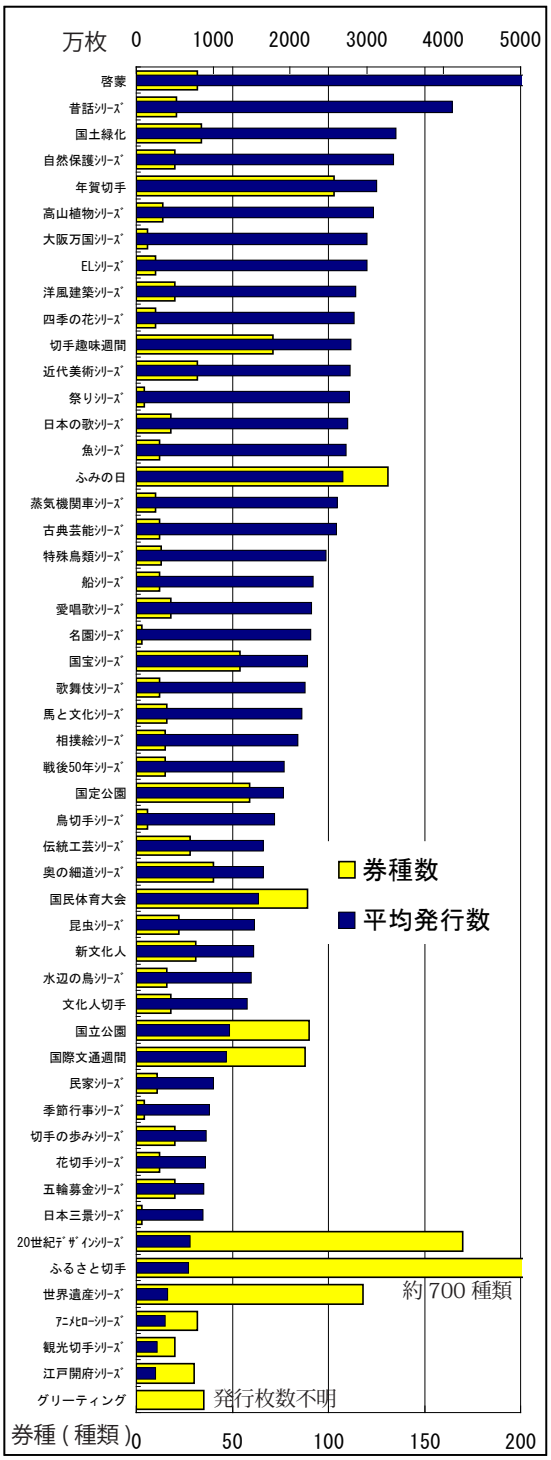


図３　シリーズ別券種数と平均発行枚数

ているのは当然ですが、20世紀シリーズ、ふみの日が連刷シートによる乱発効果がここに見られ非常に発行枚数が多くなっています。また、切手趣味週間、国宝シリーズと一般に人気のあるものも枚数が多くなっています。

更に、各シリーズ単位で券種１枚当たりの平均発行枚数を整理してみると図３グラフ（左頁）の細棒のようになります。ここで注意されるのが 1960 年代後半から 1980 年代に発行されたシリーズ切手の発行枚数の多さに較べ、1990 年代後半からのシリーズ切手すなわち連刷シート発行シリーズ切手の発行枚数少なさです。平均すると 20 分の１に減じているのではないでしょうか。これを図１の券種グラフに照らして考えると 1960-80 年代は乱造に傾いた切手の発行が、1990 年代から徐々に乱発へて変わってきていることを示していると考えられるでしょう。記念･特殊切手が本来、持つ意義を意識して、それぞれの切手を使用する楽しみという点で、発行枚数には適正な数量が必要なはずです。

乱発は使用されることよりも使用されずに収蔵されること、すなわち発行する側の利益を優先させた施策と考えざる得ません。電子通信、携帯－ MAIL の使用で郵便物の減少があるとはいえ、この傾向の是非を考えていく必要があります。

長寿シリーズ切手の発行推移

長期にわたって発行続けられてきた年賀、国民体育大会、国土緑化切手等の発行推移を見たのが図４から図９です。どの図を見ても明らかなのが券種、枚数共に一貫性の無いことです。

券種にどうにか一貫性が見られる国民体育大会 (図 7)、国土緑化切手 (図 8) にも基本的な混乱が見られます。それは両者ともふるさと切手として発行された経緯があり、記念切手に戻って再び、4,5 年前よりふるさと切手になっていることです。そしてふるさと切手として発行されたときその発行枚数は４分の１から９分の１に激減してしまっています。国民体育大会も国土緑化運動も全国的な位置づけのものだと考えるならば、このよ

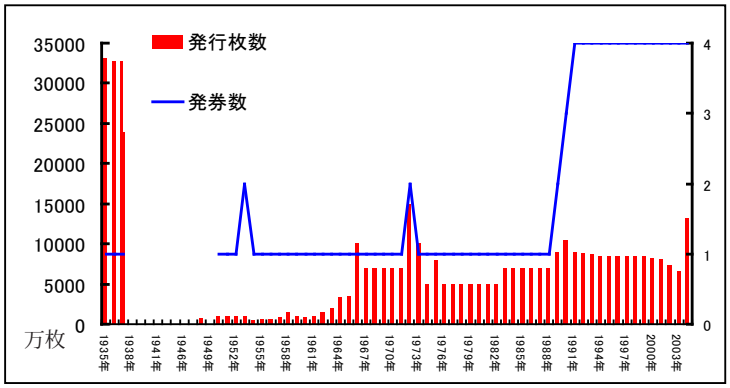


図４　年賀切手の発行推移

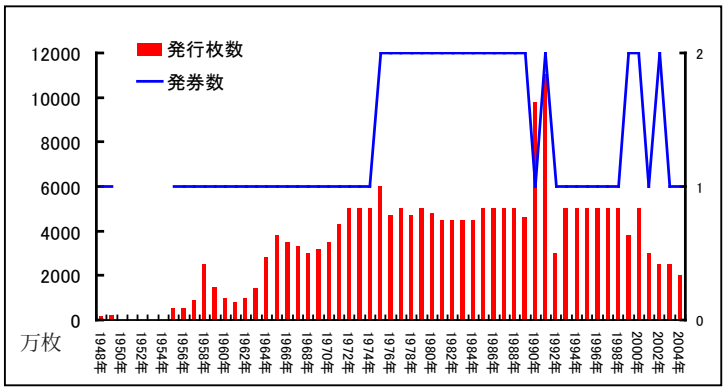


図７　切手趣味週間の発行推移

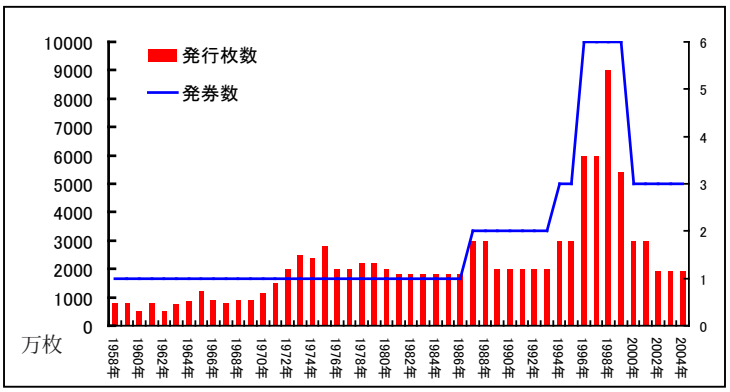


図８　国際文通週間切手の発行推移

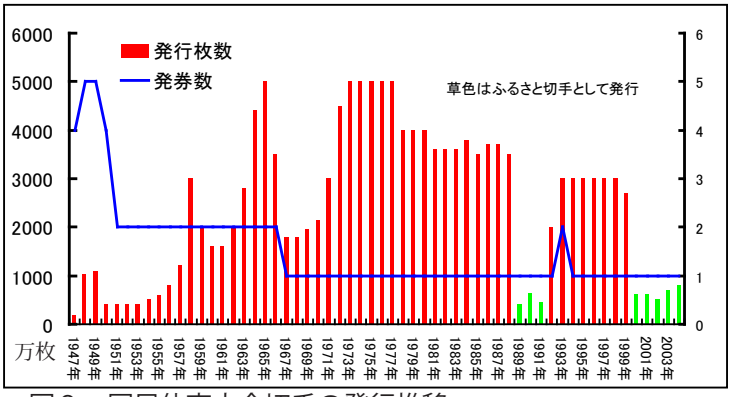


図９　国民体育大会切手の発行推移

うな発行のいいかげんさ、混乱は非難されてしかるべきでしょう。

さらに、この図の上に皆さんで切手に描かれた内容をメモしてみると、更に切手の発行に一貫性、統一性、発行方針がいかに無いかが感じ取れるのではないでしょうか。例えば、1991 年石川国体切手のシリーズ切手イメージを損なっていること、更に、国際文通週間切手をみると 12 年間は五十三次、10 年間は鳥日本画、6 年間は日本人形、7 年間は絵巻絵が連続してますがその途中で単年で浮世絵、花鳥画、歴史絵等が中に挟まり、再び、五十三次に戻ってきてます。切手サイズには目をつぶったとしても、いつになったら文通の便りが江戸に着くやら、思いやられるのは私だけではないでしょう。

ふるさと切手の発行推移

連刷シートに肩を並べる乱発の元凶ふるさと切手を見てみましょう。発行されてから 15 年で過去の記念切手発行券種 3 分の 1 を越えてしまう約 700 券種が発行されています。ふるさと切手の発行を図 10 に示しました。券種、発行枚数共に年よって大きく異なりばらつきがありますが券種と枚数は比例してきていました。しかし、2000 年以降 2 種連刷から 4 種連刷が多くなり 2004 年には連刷シートとして 20 種連刷という収集家泣かせともいうものが発行されてしまいました。今後、ふるさと切手にまで連刷シートが発行されだすことはますます乱発を進めるのではと危惧せざる得ません。

収集家の財布への影響

最後に、収集家の立場から年毎に発行された切手を 1 枚ずつ購入するのに必要な金額を図 13 にしました。やはり、ふるさと切手の発行と共に必要金額も急増し 2000 年には 2 万円にもなりまし

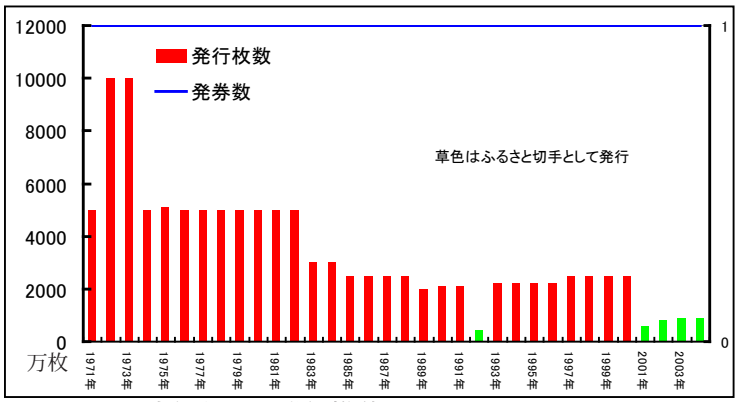


図８　国土緑化切手発行推移

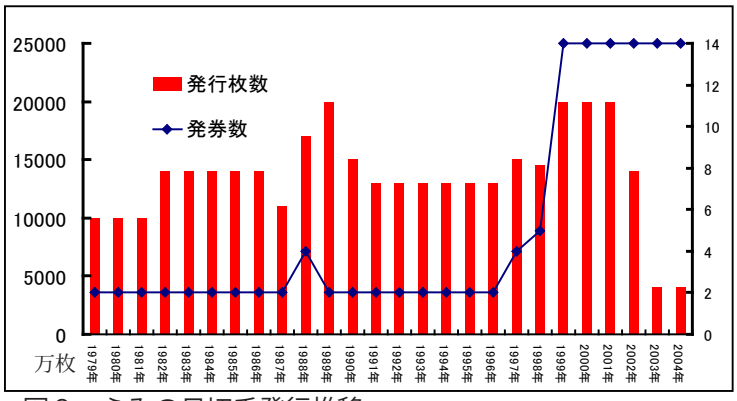


図９　ふみの日切手発行推移

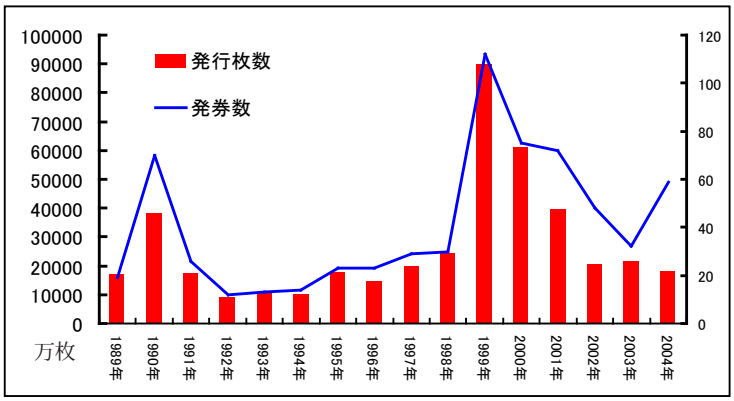


図１０　ふるさと切手発行推移

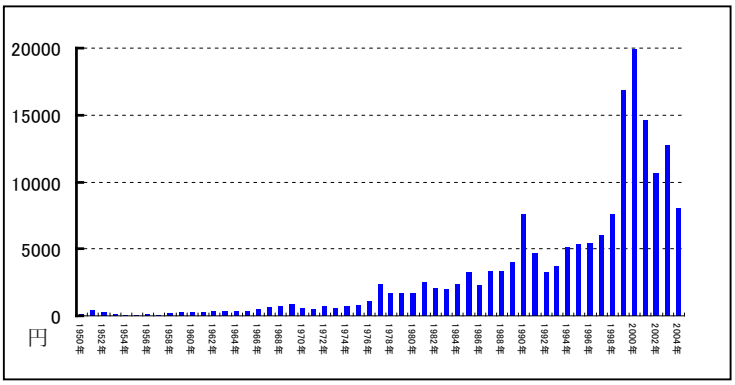


図１１　年間発行切手購入必要金額

た。これでは収集家の切手ばなれをますます進めているようなものでしょう。

小型シートについては整理対象外にしましたが小型シートの発行基準は一体どこにあるのかという疑問を抱かざる得ない結果でした。

世界に目を転じると

会報20号で世界各国の切手の発行券種の数を検討しましたが、発行枚数は未検討でした。今回、限られた国ではありますが発行枚数を調べました。券種に加え発行枚数を知ることでより切手発行に関する見識を深めることが出来ればと考えます。

発行枚数を考えるとき留意しなければならない点があります。それは発行枚数を最初に決めて作成しすべてを売り切るまで窓口で発売する日本のような発行と発売期間を決めてその間に売れた量を発行枚数とするリヒテンシュタインのような国があることです。前者は細かくても万単位での数量、後者は一桁の端数をきちんとつけた数量が発行枚数として発表されています。ちなみに切手発祥の地イギリスは後者に属し特殊切手は発行日から1年で発売を止め、毎年1年後ぐらいに発行枚数(発売枚数)が発表されてきましたが2000年を最後に発表が無いようです。切手を愛する立場と発行を管理する立場とでは自ずとどちらの発行姿勢が好ましいか判断が分かれるところだろうと思います。

さて、その発行枚数ですが外国の実態を知ろうとしても一般的カタログには記載されていません。一般的なもので発行枚数が記載されているのは、Michel[1]のみでしょう。他に特定の国に限ってみればFacit1[3](北欧)ツームスタイン[2](スイス等)、SCOTTアメリカ版[5]などがあります。しかしながら徐々に発行枚数が発表にならないのかこれらのカタログも発行枚数記載のない年が増加しているようですし、更に記載内容が異なることが散見されます。

発行枚数の比較方法

各国の発行枚数を比較するとき、単純に発行枚数を比較するのであっても発行目的、記念対象、祝賀対象等によってことなることは明らかです。対象の異なる記念切手の発行枚数を国別に比較しても意味が薄れてしまうことになります。発行枚数を比較するのは同一事項に関して発行されたものであることが求められます。更に、各国の人口、GNP、郵便利用状況等を加味して整理することが必要ですが、非常に困難です。

今回は経済状況が似通っていて、発行枚数が明らかにされているヨーロッパ諸国に限定し発行状況を検討してみました。対象とした切手は若干の価値付けは異なると思いますが広く恒常的に発行されてきているEuropa切手(以下ＥＵ切手と略記)を対象とし、各国の人口、郵便利用状況をポイントに検討しました。なお、比較しやすさを考え、年に数種発行されている場合は低額切手を対象としました。

人口の観点から

対人口発行枚数の把握できた範囲での平均枚数は表1に示します。この表から人口1000万人以上の国の数値は1.0以下であるのに対して、人口100万人以下の国は2.0以上の数値であるように人口と反比例する傾向が明らかです。対人口発行枚数の推移を人口の規模で2分してあらわしたのが図12,13(次頁)です。全体に発行枚数が減少してきていること、特に、切手に国家財政のかなりの部分を委ねてきた観光立国の小国の発行枚数の減少が明らかです。発行枚数自体をわが国のそれと比較しようとするとき、ＥＵ切手にふさわしい切手が見当たらないのでその発行期間と最も発行枚数が多いことから切手趣味週間を比較してみました。

表1　対人口ＥＵ切手発行枚数

国	平均	算出年数
Turkey	0.01	31
Hungary	0.02	1
Romania	0.04	1
Jugoslavia	0.09	21
Bulgaria	0.12	1
Poland	0.13	1
Spain	0.21	43
France	0.29	46
Italia	0.34	35
Greece	0.35	29
Austria	0.39	33
G.Britain	0.47	25
Portugal	0.50	30
Germany	0.75	35
Begium	0.83	37
Finland	0.98	35
Czech	0.98	1
Ireland	1.10	30
Sweden	1.33	22
Nederland	1.47	30
Norway	1.62	26
Cyprus	2.49	24
Denmark	2.80	18
Luxembourg	2.95	35
Switzerland	3.52	43
Malta	4.13	10
Iceland	5.34	37
Andora(FR)	9.53	33
Andora(Sp)	12.22	18
Monaco	23.55	28
San Marino	24.11	37
Faroes	35.84	11
Liechtenstein	73.34	42
Vatican	689.71	7
比較参考資料		
Japan	* 0.25	49
USA	0.47	1992年平均

* 切手趣味週間切手を対象に算出　USAは1992年特殊切手の平均で算出

その結果が表1下段の対人口発行枚数が0.25です。経済活動が緩やかな旧東欧諸国等を除く国はすべてわが国の1.5倍、北欧諸国は4～10倍の

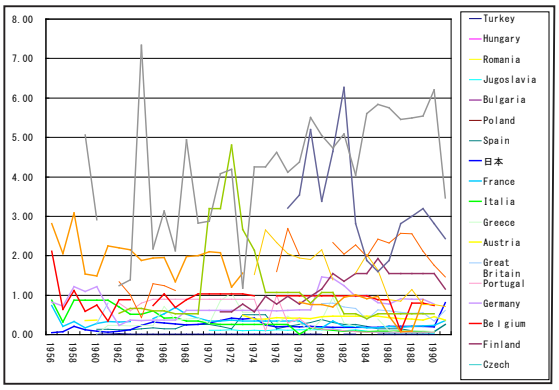


図 12 対人口ＥＵ切手発行枚数推移（人口 500 万人以上諸国）

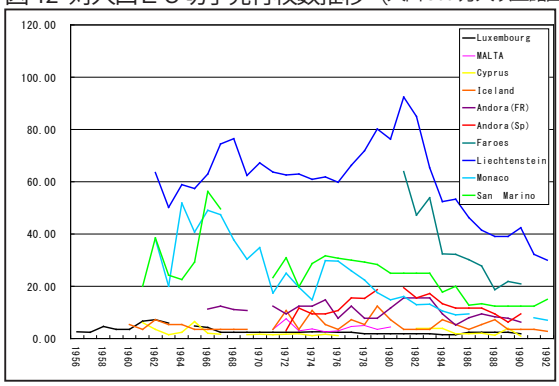


図 13 対人口ＥＵ切手発行枚数推移（人口 500 万人以下諸国）

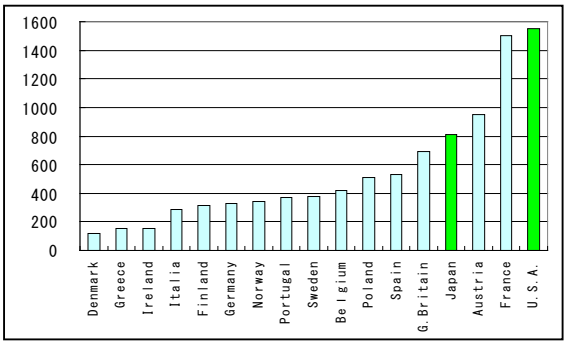
表 2 国民１人当りの郵便物量と切手発行量

	国民１人当り量		通常郵便物÷切手枚数
	切手枚数	通常郵便	
Denmark	2.80	334.7	119.54
Greece	0.35	53.9	154.00
Ireland	1.10	170.2	154.73
Italia	0.34	98.5	289.71
Finland	0.98	304.9	311.12
Germany	0.75	248.6	331.47
Norway	1.62	555.0	342.59
Portugal	0.50	186.4	372.80
Sweden	1.33	502.9	378.12
Begium	0.83	345.7	416.51
Poland	0.13	66.0	507.69
Spain	0.21	111.8	532.38
GreatBritain	0.47	324.9	691.28
Japan	0.25	202.3	809.75
Austria	0.39	371.5	952.56
France	0.29	435.9	1503.10
U.S.A.	0.47	728.9	1550.85

切手を国民１人当り発行している。また、アメリカと比較しても発行枚数は半分程度と考えられる。

郵便物量の観点から

次に、人口ではなく対人口発行枚数を郵便利用状況[4]から検討してみました。時期に多少のずれはあ



ヨーロッパ諸国は EU 切手、日本は切手趣味 .USA は 1992 年の特殊切手の平均数値

図１４ 対象切手貼付郵便物１通が見つかる数量

るが国民１人当り年間通常郵便物差出数と表２の枚数を検討したの図 14 です。この数値は理屈として何通の郵便物当り１枚の EU 切手等が貼られるかを示すと考えられます。日本の数値は 800 通の郵便物の中に１通の切手趣味週間切手が貼られた郵便物が期待できるということです。この数値を見る限りヨーロッパの国々に比較し日本の特殊切手の発行枚数はかなり少ないと判断せざる得ません。このような切手の発行状況でありながらなぜ日本切手の乱発、乱造が言われるのでしょう。発行の種類は 20 号に述べましたように世界でも多く、乱発を指摘されることは明らかです。しかし、乱造ということは何を持って乱造なのか。通常切手製造枚数との関係からか、売れ残りの窓口に残留する期間が長いからか、特殊切手類の発行数の全体量からか、質の悪い切手の多さなのか、そして一向に値上がりしないカタログ値の低さを嘆いてのことなのか。このあたりを乱造という観点からじっくり検討する必要がありそうです。

わが国とアメリカの切手発行

わが国の切手発行券種数とその発行数の双方から比較したいと考えアメリカの特殊切手発行状況と比較しました。日本、アメリカの資料を同じ方法で整理したのが次頁の図 15,16 のグラフです。各年毎に発行数の少ない順に並べ、特殊切手発行開始年から一券種毎の発行枚数を日本は 2004 年，アメリカは 2001 年までを棒グラフに整理しました。横の幅が各年毎の券種数を表しています。縦の発行枚数の尺度は双方の発行数の実態にあわせたものにしてあります。

発行枚数が桁違いに異なることが明確にわかり

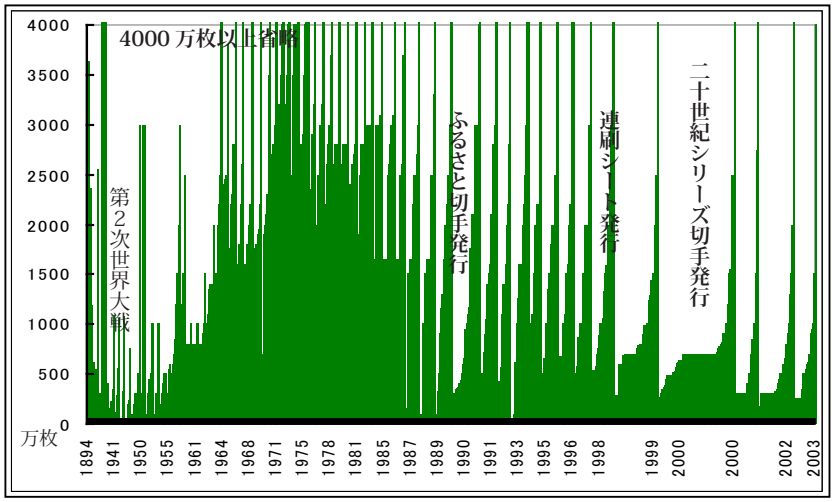


図 １５　日本の特殊切手発行券種数と発行枚数

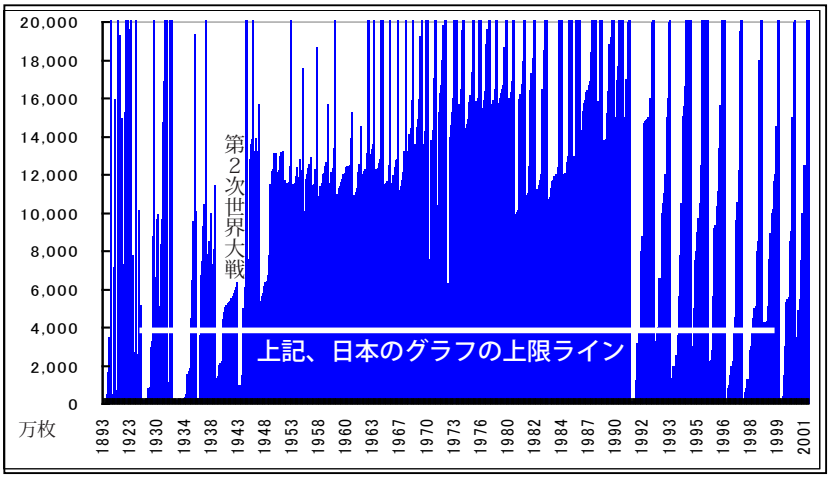


図 １６ アメリカの特殊切手発行券種数と発行枚数

ます。国土の広さ、経済活動の活発さ等から当然とも思われますが、億単位の発行枚数を消化できるアメリカの郵便事業体制には一目をおかざる得ない思いです。

次に、発行券種数も明らかに違いが見られます。戦前の発行券種数でアメリカが日本の３倍程度多く発行しており、その差は 60 年代半ばまであまり変化がなかったのが 1980 年代に追いつき、90 年代後半から日本の発行券種が過去 100 年の差をなくすまでの多さになったこと読み取れます。

両国とも、年度毎にグラフを見ると縦長のグラフが横に長く傾斜がみられるグラフになってきています。切手種類を多く発行し発行枚数を少なくしていくという発行方針に変わったことを示しています。

この発行方針変更は切手収集家の減少による切手の売り上げ減を維持するためのように感じられます。シートブックに収蔵される切手の量を切手の種類を増やすことで維持しようとしていると考えざる得ません。

以上、情報量が少なくなりつつある切手の発行枚数という面から切手を考えました。郵政民営化が実施され、IT による情報通信手段が進化する中、切手の将来を考える糧にしていただければ幸いです。

参考文献

1) MICHEL CEPT/UNO-KATALOG 2000/01
2) Zumstein Schweiz Liechtenstein 2006
3) FACIT 2002 Special
4) 世界国勢図会 2000/2001 P452-453 国勢社
5)SCOTT 2006 CATALOGUE Specialized of United States Stamps & Covers P406-411

（第 43 回切手教室のレジュメを加筆、訂正しました。）

ヨーロッパ切手雑感

1956 年ベネルックス３国 , フランス、ドイツ、イタリアの６ヶ国でスタートしたＥＵ。今日は加盟 27 ヶ国を擁するものとなっている。切手の方はもっと発展し、６ヶ国が約 60 の国、地域から発行されるようになり、統一デザインから建物、人物、芸術等を取り上げる一大テーマコレクションの対象である。こんななか気になる切手がある。

発行を中断する国を横目に、ＥＵ発足の２年後からＥＵ切手を発行し続け、皆勤賞である国、トルコのＥＵ切手である。イスラム圏でありながらケマル主義を選択し、西欧的アイデンティティーを身につけようとし、ヨーロッパの仲間入りを切望するトルコの努力の切手。ギリシャに先を越された現在、その切手に託した願いが報われる日がくるのであろうか。